ウィニングラン®フロアブル

■種 類 名：イプフェンカルバゾン・ブロモブチド・ベンスルフロンメチル水和剤
■有効成分：イプフェンカルバゾン---------- 5.0%
ブロモブチド---------- 18.0%
ベンスルフロンメチル ---------- 1.4%
■化管法指定物質：イプフェンカルバゾン［第１種］---------- 5.0%
ベンスルフロンメチル［第１種］---------- 1.4%

■登録番号：第24363号
■毒　　性：普通物(毒劇物に該当しないものを指していう通称)
■登録初年：2020.03.25
■性　　状：類白色水和性粘稠懸濁液体
■有効年限：5年（担い手直送規格は2年）
■包　　装：500㎖×20本、2㍑×6本
20㍑(担い手直送規格)

【特長】

- 水稲に対する安全性が高く、田植同時散布可能な一発処理除草剤。
- 有効成分イプフェンカルバゾンがノビエの発生を長期間抑える。
- ＳＵ剤抵抗性雑草（ホタルイ、コナギ、アゼナ類）に有効。
- 無人航空機による滴下、水口施用など省力的な散布方法で使用可能。

【適用内容】（2024 年 11 月末日現在）

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ ウリカワ クログワイ オモダカ シズイ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植時	500 ㎖/10a	1 回	田植同時散布機で施用
		移植直後～ノビエ 2.5 葉期 但し、移植後 30 日まで			原液湛水散布、水口施用 又は 無人航空機による滴下
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ セリ	稲 1 葉期～ノビエ 2.5 葉期 但し、収穫 90 日前まで			原液湛水散布 又は 無人航空機による滴下

イプフェンカルバゾンを含む農薬の総使用回数	ブロモブチドを含む農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む農薬の総使用回数
２回以内	２回以内	２回以内

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 使用前に容器をよく振ってから使用すること。
- 本剤は雑草の発生前から発生初期に有効なので、ノビエの２．５葉期までに時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカは２葉期まで、ウリカワ、クログワイ、オモダカは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、シズイは草丈３㎝まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが本剤の散布適期である。
  オモダカ、クログワイ、シズイは発生の期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さない場合があるので、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用すること。
- 散布に当っては水の出入りを止めて湛水状態のまま本剤を水田全面にゆきわたるように散布すること。

● 苗の植え付けが均一となるように代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいに行うこと。
● 稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので使用しないこと。
● 本剤散布後、少なくとも３～４日間は通常の湛水状態(水深３～５㎝)を保ち、散布後７日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出する間際になったら、水尻は止めたままにし、通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。また、入水は静かに行うこと。
● 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
◆ 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深２㎝/日以上）
◆ 軟弱な苗を移植した水田
◆ 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
◆ 散布後に高温傾向が続くと予想される時
● 本剤を無人航空機で滴下する場合は次の注意を守ること。
◆ 滴下は使用機種の使用基準に従って実施すること。
◆ 滴下に当っては散布装置のノズルを使用しないこと。
◆ 作業中、薬液が漏れないように機体の配管その他装置の十分な点検を行うこと。
◆ 隣接する圃場に水稲以外の作物が栽培されている場合は、無人航空機による本剤の滴下は行わないこと。
◆ 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
◆ 薬剤滴下に使用した装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
◆ 本剤の滴下に使用した無人航空機の散布装置は、水稲以外の作物への薬剤散布には使用しないこと。
● 水口施用の場合は、入水時に本剤を水口に施用し、流入水とともに水田全面に拡散させること。処理後田面水が通常の湛水状態（湛水深３～５ｃｍ）に達した時に必ず水を止め田面水があふれないように注意すること。
● 除草効果が低下することがあるので、梅雨期等、散布後に多量の雨が予想される場合は使用をさけること。
● 本剤は、移植前に生育したミズガヤツリには効果が劣るので、物理的防除方法などを用いて移植前に防除してから使用すること。
● 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合には、十分注意すること。
● 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
● 散布器、ホース、ノズル、タンク等の器具は、使用後速やかに十分に水洗し、洗浄液は水田内で処理すること。また、使用した機器等は水稲用薬剤以外に使用しないこと。
● 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

❖ 誤飲などのないよう注意すること。
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
❖ 眼に対して弱い刺激性があるので、眼に入らないように注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
❖ 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン･長袖の作業衣などを着用すること。
作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。
❖ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
❖ 魚毒性等：水産動植物(藻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること
無人航空機による滴下で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
散布後は水管理に注意すること。
散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。